

2023年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月13日

上場会社名 株式会社グッドパッチ 上場取引所 東
 コード番号 7351 URL <https://goodpatch.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 土屋 尚史
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員CFO (氏名) 槇島 俊幸 (TEL) 03(6416)9238
 四半期報告書提出予定日 2023年1月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け、個人投資家向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第1四半期の連結業績(2022年9月1日~2022年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第1四半期	848	△13.3	△34	-	△32	-	△13	-
2022年8月期第1四半期	978	50.2	223	91.4	225	93.4	161	65.0

(注) 包括利益 2023年8月期第1四半期 △13百万円(-%) 2022年8月期第1四半期 160百万円(63.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第1四半期	△1.61	-
2022年8月期第1四半期	20.32	19.27

(注) 2023年8月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第1四半期	3,898	3,202	81.8
2022年8月期	4,169	3,209	76.8

(参考) 自己資本 2023年8月期第1四半期 3,190百万円 2022年8月期 3,201百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年8月期	-	-	-	-	-
2023年8月期(予想)	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	3,892	4.5	259	△34.3	260	△34.2	133	83.4	15.93	15.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年8月期1Q	8,376,480株	2022年8月期	8,347,680株
2023年8月期1Q	845株	2022年8月期	819株
2023年8月期1Q	8,360,797株	2022年8月期1Q	7,928,306株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料のP. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、ロシア・ウクライナ情勢の影響などによる原材料価格の高騰に加え、世界的なインフレの進行リスクに対応した政策金利の引き上げなど、依然として先行きの不透明な状況が続いております。日本経済においては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のワクチン接種が進み、社会経済活動の正常化に向けた動きが見られましたが、同感染症の収束が未だ見通せないほか、円安進行に加えエネルギー価格の高騰等、総じて経済活動は慎重な姿勢が続く動きとなりました。加えて、日本企業は、グローバル化、戦略実現のスピードアップ、イノベーション創発、企業間連携の促進、生産性の向上、また、それらを実現するためのテクノロジーの活用といったテーマに直面し、激しく変化する市場環境における経営のあり方そのものの見直しを迫られております。

特に大手企業を中心に「デジタルトランスフォーメーション（DX）（注1）」に強い関心が寄せられており、既存のビジネスモデルや業界構造を大きく変化させる新たなデジタル化の流れが、引き続き力強いものとなっております。企業は顧客により高い付加価値を提供するため、クラウド等のプラットフォーム、スマートフォンやIoT等の新たなデバイス、AIやブロックチェーン等の新たなテクノロジーを組み合わせたサービスの開発が進められております。

このような事業環境の中で、当社グループは「ハートを揺さぶるデザインで世界を前進させる」というビジョンのもと、「デザインの力を証明する」というミッションを掲げて、「デザイン」を通じて人々の生活がより便利になり、より暮らしやすくなることを目指し事業活動を推進してきました。具体的には、顧客企業を利用するユーザーの根本的なニーズに基づいたユーザーエクスペリエンス（UX）を実現し、顧客企業が提供するサービスに期待される価値創造の支援や、最適なデザインを設計するサービスであるデザインパートナー事業、そして、自社サービスである「ReDesigner」、「Strap」、「Prot」などのサービスで構成されるデザインプラットフォーム事業を主要事業と位置づけ、相互にシナジーを創出することに注力しながら推進してまいりました。また、当社グループでは、当社の強みである戦略デザインやUI/UXデザインと、連結子会社である株式会社スタジオディテイルズの強みである質の高いクリエイティブとブランディングを融合し、顧客企業のさらなる期待に応えられるデザイン支援を提供できるよう、企業価値向上に取り組んでおります。なお、当第1四半期連結累計期間において、新規プロジェクト獲得は改善を示しているものの、前第4四半期連結会計期間における新規プロジェクト獲得の減速、及び連結子会社Goodpatch GmbHの解散決議に伴うプロジェクトの停止により、売上高が減少し営業損失となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は848,550千円（前年同期比13.3%減）、営業損失は34,123千円（前年同期は223,944千円の営業利益）、経常損失は32,159千円（前年同期は225,519千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は13,445千円（前年同期は161,130千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

報告セグメント別の業績の状況は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前年同期比較は、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

① デザインパートナー事業

デザインパートナー事業は、顧客企業を持つ本質的な価値を発見し、その要素を紐解きながら、顧客企業のユーザーが持つ価値観に則して、その価値が適切に伝わるように顧客企業の戦略やブランディング、ビジネスプロセス等も踏まえてデザインを実装していきます。その際に、当社のUXデザイナー及びUIデザイナーが中心となり、顧客企業のプロジェクトチームと一体となって、デザインプロジェクトをリードします。

主にWebサイトやアプリケーション等のデジタルプロダクトのデザイン開発を進めたい顧客企業に対しては、顧客企業が必要とするUI/UXデザイン（注2）の実現を支援します。さらにそのようなデジタルプロダクトの実装や開発まで希望する顧客企業に対しては、当社のエンジニアによりアプリケーション開発を行います。そのような過程において、顧客企業は既存ビジネスプロセスをデジタル化し、イノベーションの創出を図ることが可能です。また、顧客起点の新たな価値創出のための変革を図りたい顧客企業に対しては新規事業の検証やアイデアを創出するための支援についても行ってまいります。

近年デジタルトランスフォーメーション（DX）が注目を集め、企業がデジタル領域において変革を求められる状況の中で、デザインの持つ役割の重要性は益々高まっております。そのような状況の中、当社グループとしては数多くのデジタルデザイン支援の知見を集約し、経験豊富なデザイナーを集め、育成することで、より多くの企業に対して、高品質なデザイン支援を行うことが可能になります。そのため、当社グループはデザイナーの採用活動を積極的に行い、提供リソースであるデザイナー人員を拡大するとともに、より幅広い業種業態の顧客企業に対してデザイン支援プロジェクトを実施してまいりました。加えて、当第1四半期連結会計期間より、「Goodpatch Anywhere」をデザインパートナー事業へ変更し、さらなるプロジェクト獲得及び運用の柔軟化を目指し、日本国内のデザインパートナー事業及び「Goodpatch Anywhere」における営業リードの共有に加え、プロジェクト獲得やデザイナーリソースの連携を行ってまいりました。

当第1四半期連結会計期間においては、「Goodpatch Anywhere」を除いた社内デザイン組織によるプロジェクト提供を行った顧客社数(注3)は29.3社（前年同期は26.7社、前年同期比10.0%増）、月額平均顧客単価(注4)は6,329千円（前年同期は7,816千円、前年同期比19.0%減）となりました。また、当第1四半期連結会計期間末において、社内デザイン組織のデザイナー数は149名（前年同期比17.3%増）、「Goodpatch Anywhere」の所属デザイナー数は454名（うち稼働デザイナー数は49名、前年同期比32.0%増）となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるデザインパートナー事業の売上高は769,274千円（前年同期比15.3%減）、営業損失は2,823千円（前年同期は242,920千円の営業利益）となりました。なお、デザインパートナー事業における主なKPIの推移は下記表のとおりであります。

（デザインパートナー事業のKPI推移）

	2022年8月期				2023年8月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	
	実績	実績	実績	実績	実績	前年同期比
顧客社数 (社)	26.7	29.3	36.7	35.0	29.3	10.0%
月額平均顧客単価 (千円)	7,816	6,383	6,027	5,685	6,329	△19.0%

※2022年8月期第3四半期連結会計期間より、顧客社数及び月額平均顧客単価は、連結子会社の株式会社スタジオディテイルズの数値を含めております。

※Goodpatch Anywhereの数値は含めておりません。

② デザインプラットフォーム事業

デザインプラットフォーム事業は、デザインパートナー事業によって行われるUI/UXデザイン支援を様々な側面からサポートするサービスを提供しております。具体的には、自社で構築したデザイン人材プールを活用したデザイナー採用支援サービス「ReDesigner」、SaaS型のオンラインホワイトボードツール「Strap」及びデザインパートナー事業で培ったナレッジの蓄積をもとにしたプロトタイプングツール(注5)「Prott」で構成され、それぞれのシナジーを創出し、デザインに関連したビジネスの拡大を行うものとなります。

当第1四半期連結会計期間においては、「ReDesigner」は、契約企業数や内定者数が増加し、採用支援実績を積み上げております。「Strap」並びに「Prott」においては、「Prott」のリソースを有効に活用し、「Strap」の機能開発を強化しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるデザインプラットフォーム事業の売上高は79,376千円（前年同期比12.4%増）、営業損失は31,200千円（前年同期は18,976千円の営業損失）となりました。

- (注) 1. デジタルトランスフォーメーション (DX) とは、Digital Transformationの略語で、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること、を意味します。
2. UI (User Interface/ユーザーインターフェース) とは、「ユーザーがPCやスマートフォン等のデバイスとやり取りをする際の入力や表示方法などの仕組み」を意味します。また、UX (User Experience/ユーザーエクスペリエンス) は「サービスなどによって得られるユーザー体験」のことを意味します。
3. 顧客社数とは、デザインパートナー事業において、当社グループとデザインプロジェクトを進めるために契約した顧客企業の社数を指しており、1か月にデザイン支援を提供した顧客社数の3か月の平均値を示しています。
4. 月額平均顧客単価とは、(1か月にデザイン支援を提供した顧客社数の売上総額 / 1か月にデザイン支援を提供した顧客社数) の3か月の平均値を示しています。
5. プロトタイピングとは、最終成果物の試作品を早い段階から作り、改善を繰り返す手法のことを意味します。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて238,775千円減少し、3,073,296千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少280,646千円、売掛金及び契約資産の増加31,641千円があったこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて32,801千円減少し、825,068千円となりました。主な要因は、償却によるのれんの減少15,866千円、繰延税金資産の減少8,346千円があったこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて271,577千円減少し、3,898,364千円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ211,783千円減少し、497,488千円となりました。主な要因は、法人税等の支払いによる未払法人税等の減少108,922千円、消費税等の支払いによる未払消費税等の減少39,736千円があったこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ52,472千円減少し、198,847千円となりました。主な要因は、長期借入金の返済による長期借入金の減少31,454千円及び在外連結子会社におけるリース債務の減少22,686千円によるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて264,256千円減少し、696,335千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて7,320千円減少し、3,202,028千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少13,445千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期通期の業績予想については、2022年10月14日の「2022年8月期通期決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はございません。

今後、業績予想の数字に影響を及ぼす事態が生じた場合には、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,910,461	2,629,815
売掛金及び契約資産	348,971	380,613
仕掛品	1,752	1,813
前払費用	45,073	54,885
その他	5,812	6,168
流動資産合計	3,312,071	3,073,296
固定資産		
有形固定資産		
建物	68,769	68,769
減価償却累計額	△27,242	△28,425
建物(純額)	41,526	40,344
工具、器具及び備品	89,729	90,167
減価償却累計額	△71,437	△73,804
工具、器具及び備品(純額)	18,292	16,362
有形固定資産合計	59,819	56,707
無形固定資産		
商標権	1,984	1,922
のれん	539,472	523,606
顧客関連資産	69,888	67,833
その他	96	84
無形固定資産合計	611,441	593,446
投資その他の資産		
投資有価証券	54,441	55,897
敷金及び保証金	28,929	25,633
繰延税金資産	93,731	85,384
その他	9,505	8,000
投資その他の資産合計	186,608	174,915
固定資産合計	857,870	825,068
資産合計	4,169,942	3,898,364

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	47,377	41,825
1年内返済予定の長期借入金	125,816	125,816
未払金	148,026	130,930
未払費用	61,114	45,495
未払法人税等	123,911	14,989
未払消費税等	98,175	58,438
契約負債	42,489	42,023
リース債務	20,224	-
賞与引当金	215	-
その他	41,921	37,969
流動負債合計	709,271	497,488
固定負債		
長期借入金	192,731	161,277
リース債務	22,686	-
資産除去債務	11,560	11,564
繰延税金負債	24,342	26,006
固定負債合計	251,320	198,847
負債合計	960,592	696,335
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,511,039	1,512,837
資本剰余金	1,506,039	1,507,837
利益剰余金	186,620	173,174
自己株式	△110	△110
株主資本合計	3,203,588	3,193,737
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△2,407	△2,941
その他の包括利益累計額合計	△2,407	△2,941
新株予約権	8,168	11,232
純資産合計	3,209,349	3,202,028
負債純資産合計	4,169,942	3,898,364

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)
売上高	978,582	848,550
売上原価	360,509	370,547
売上総利益	618,072	478,002
販売費及び一般管理費	394,128	512,126
営業利益又は営業損失(△)	223,944	△34,123
営業外収益		
受取利息	0	0
持分法による投資利益	-	1,456
受取家賃	2,541	-
その他	428	1,372
営業外収益合計	2,970	2,828
営業外費用		
支払利息	1,202	399
為替差損	16	131
株式交付費	49	75
その他	127	257
営業外費用合計	1,395	864
経常利益又は経常損失(△)	225,519	△32,159
特別利益		
事業整理益	-	35,826
特別利益合計	-	35,826
税金等調整前四半期純利益	225,519	3,667
法人税、住民税及び事業税	44,277	7,102
法人税等調整額	20,110	10,010
法人税等合計	64,388	17,113
四半期純利益又は四半期純損失(△)	161,130	△13,445
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	161,130	△13,445

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	161,130	△13,445
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,044	△533
その他の包括利益合計	△1,044	△533
四半期包括利益	160,086	△13,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	160,086	△13,979
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2021年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						四半期 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業				デザイン プラットフォーム 事業	計	
	日本国内	Goodpatch Anywhere	ヨーロッパ (ドイツ)	小計			
売上高							
外部顧客への 売上高	515,048	260,065	132,879	907,993	70,589	978,582	978,582
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	515,048	260,065	132,879	907,993	70,589	978,582	978,582
セグメント利益 又は損失(△)	127,373	89,002	26,544	242,920	△18,976	223,944	223,944

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業				デザイン プラットフォーム 事業	計		
	日本国内	Goodpatch Anywhere	ヨーロッパ (ドイツ)	小計				
売上高								
外部顧客への 売上高	589,906	146,252	33,115	769,274	79,276	848,550	—	
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	99	99	△99	
計	589,906	146,252	33,115	769,274	79,376	848,650	△99	
セグメント利益 又は損失(△)	9,362	17,251	△29,436	△2,823	△31,200	△34,023	△99	

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、「Goodpatch Anywhere」の経営資源を、事業戦略の類似性、関連性に基づき「デザインパートナー事業」に配分する組織体制に移行したことに伴い、従来「デザインプラットフォーム事業」に含めていた「Goodpatch Anywhere」を「デザインパートナー事業」に変更いたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。